

わんぱくが つくるまち



わたしたちがつくるまち おぢや

02 はじめに
03-04 おぢやの現状
05 データから見てきたもの→Vision

06 Vision を掲げ取り組んだこと

- 07 アンケート結果【学生】
- 08 アンケート結果【保護者】
- 09 ヒアリング結果【社会福祉関係者】
- 10 ヒアリング結果【まちづくり関係者】
- 11 ワークショップ結果【学生】
- 12 ワークショップ結果【スポーツ関係者】
- 13 ワークショップのアンケート結果
- 14 結果から感じたこと

15-16 Mission つながる

17-18 提言 目指すべき施設
19 拠点づくりから始めよう！

20-21 私たちがつくるまち
22 おわりに



はじめに

まちとは、活用し生活する人がいて存在します。同様に、活用し生活する人がいるからこそ、まちとして存在し続けると考えます。この人たちにとって価値あるまちであることが、まちが、まちとして存在できる唯一の理由だと考えます。この価値とは、どうすることで生まれてくるのでしょうか。

小千谷病院のこれから

小千谷総合病院は、明治24年11月20日に木村東眠という献身的なお医者様を中心とする先人により「地域住民の健康を守る医療の拠点」として創設され、125年の歴史を積み重ね現在の地に至っています。

はじめに、今まで私たち市民の健康を支えてこられた「拠点」小千谷総合病院に心より感謝の意を表します。

さて、小千谷総合病院は、平成29年4月に統合し、新しい病院へその機能に移します。今まで地域医療の「拠点」としてその機能を果たしてきたこの地を、これから新たな「拠点」としてどのように活用していくことが望ましいのか。様々な組織、団体で現在模索が進んでいます。

この地は、誰のために何のために活用されることが望ましいのか。私たちは、様々な活動を通し、新たな「拠点」としての活用方法の模索を行いました。

拠点とは・・・活動の足場となる重要な地点

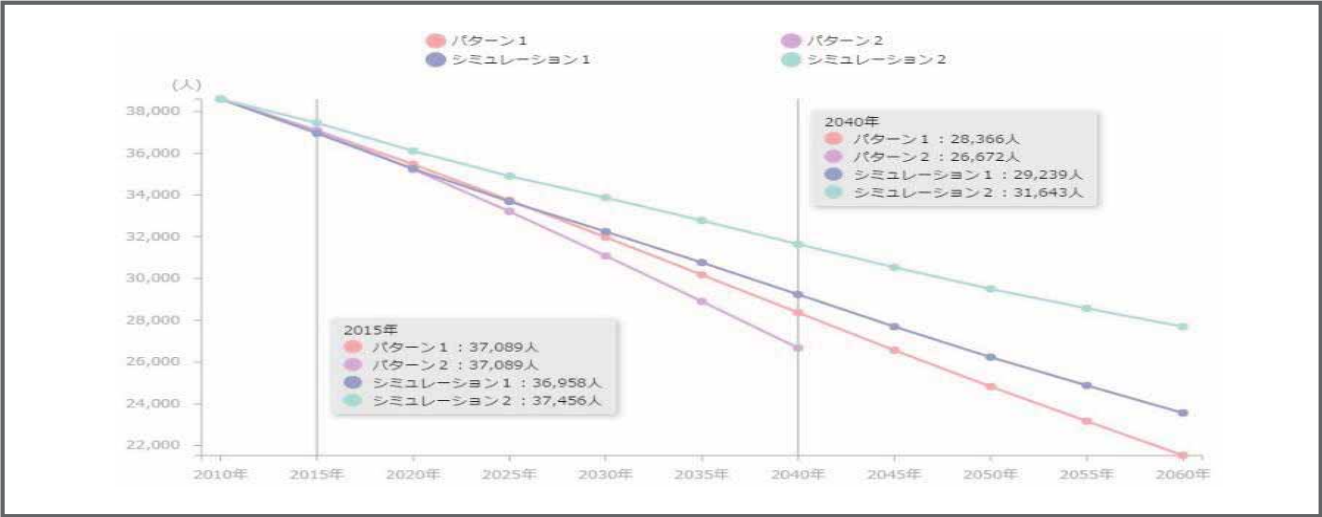


さて、この冊子を手にとったあなたならどう考えますか？

ページを読み進めながら一緒に考えていただけたら嬉しいです。



資料①



①小千谷市のこれから先の総人口の推移 地域経済分析システム「リーサス」より

小千谷市は、未来に進むに従い**総人口が年々減少**の一途をたどっていきます。

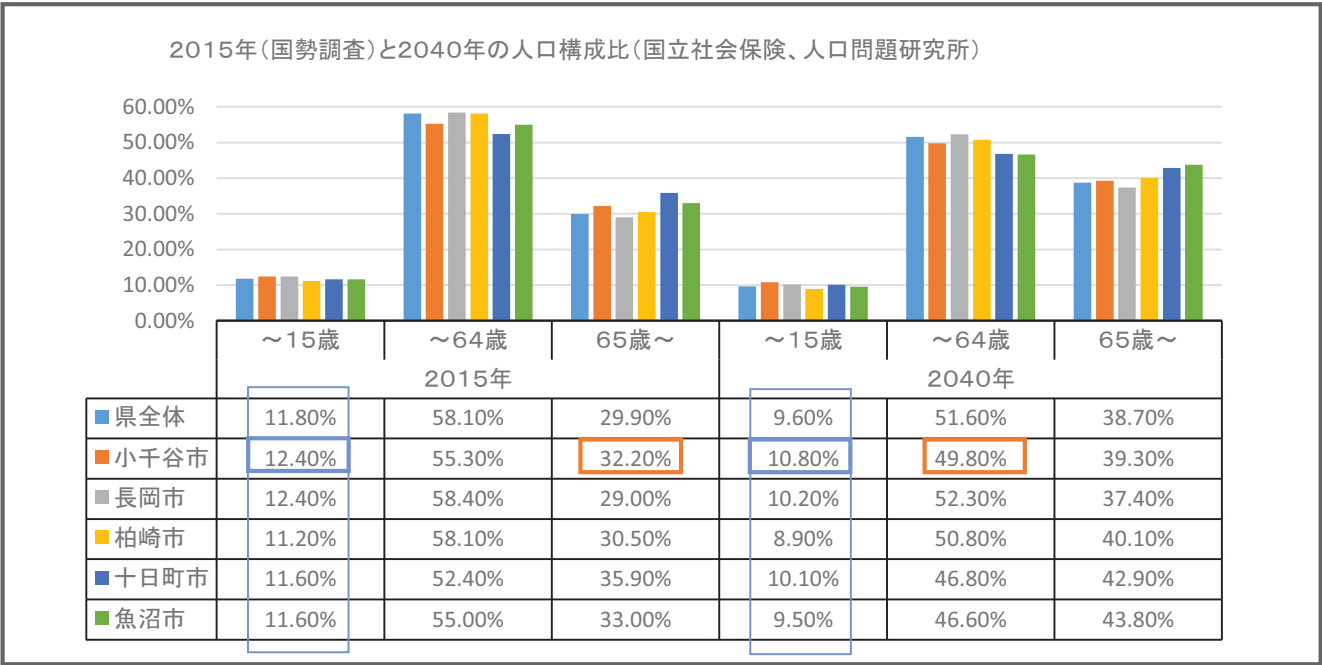
(国立社会保険、人口問題研究所)

【注記】パターン1：全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計（社人研推計準拠）
パターン2：全国の総移動数が、平成22年から平成27年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計（日本創成会議推計準拠）
シミュレーション1：合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇したとした場合のシミュレーション
シミュレーション2：合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした（移動がゼロとなった）場合のシミュレーション。

人口の増減要因は、大きくわけて2つに分類されます。

1. 出生と死亡による人口の増減。
これを**自然増減**といいます。
2. 小千谷に転入、または転出。
これを**社会増減**といいます。

資料②



②新潟県全体、周辺市町村と見比べた小千谷市の総人口の構成比

老年人口（65歳以上）の比率と年少人口（0歳から15歳）の比率に注目しました。小千谷市は新潟県全体、近隣市町村よりも**年少人口比率が高い**ことがわかりました。

資料③



内閣府

人口の社会増の実態（人口移動を引き起こす要因）
より抜粋

出生・死亡・移動の人口学的事象（demographic event）別に検討。¹⁰⁵まず、人口移動についてみると、人口が地域間移動を行う誘因として、経済的要因・社会的要因・人口学的要因等、様々な要因が指摘されている。経済的要因としては、より豊富な就業機会、高い所得水準を求めて移動することが考えられ、社会的要因としては、職業・教育事情（転勤、進学等）、家族事情（結婚、親との同居・近居等）、住宅事情、健康事情等、様々な要因が指摘されている。さらに、**看過できない要因として、人口学的要因の影響が挙げられる。例えば、就職・進学等で移動が活発な若年層がどの地域にどれくらい存在するかが、人口移動の大きさや移動元・先に大きく影響する。**また、地方における「潜在的他出者」の存在の多寡も、都市への人口流出圧力を左右する要因となる。

¹⁰⁵ なお、人口移動という人口の社会増減は、出生・死亡という人口の自然増減と独立した関係にある訳ではない。すなわち、**地方から若年人口の流出があった場合、その地域の人口への影響はその人数の社会減だけに止まらない。その移動した若年人口が仮に地域に留まっていれば将来子どもを持ち育てていたであろうことを考えると、地方としては将来世代の人口（将来人口の自然増）をも失うことを意味する。つまり、単なる労働力の流出となるのではなく、「人口の再生産力」をも都市へ移転されることとなる。**松谷(2009)。吉田他(2011)は、都道府県別の人口の社会増加率と自然増加率の関係を分析し、85～90年の社会増加率とその10年後の90～2000年の自然増加率との間で、相関が高かったとしている。

③人口の社会増の実態（人口移動を引き起こす要因）

資料②の年少人口など若者世代が市外、県外に転出して戻らなければ、将来の自然増も失うことを言っています。よって**社会増減に注目**してます。

資料④



学生世代の**①** 15歳から19歳の多くの人々が小千谷市から転出し、若者といわれる**②** 20歳～24歳の人の転入が多くなっています。

①の転出人口よりも②の転入人口が少ないということが分かります。

ここまでのデータ・情報から見えてきたもの

- 1) 小千谷市の人口は年々減少していき、老年人口の比率が高くなっていく。
- 2) 小千谷市内全人口に占める年少人口（0歳～15歳）の割合が高い。
- 3) まちの若者が減少することは出生数を減少させることにつながる。
これは自然増減にも大きな影響をもたらす。
- 4) 小千谷市内の若者世代は転出人口よりも転入人口が少ない。

これらのデータ、情報を収集し調査、分析したところ、人口減少が進み高齢者が占める人口構成比率も高くなっていくことがわかりました。また、若者の多くは進学などで転出していますが、帰郷する割合は少ないと感じます。そこで、まちに住んでいたい、いつかは帰ってきたいと思う人が今よりも増えたら人口の減少は少しでも緩やかになるのではないかという考えに至りました。

Vision

住み続けたいまち 帰ってきたいまち



- ・若者が居たいと思えるまちでなければ・・・
- ・高齢者が生きがいを持って暮らせる環境・・・
- ・より子育てしやすく・・・
- ・まちをもっと身近に活用してもらうためには・・・
- ・どんな拠点があればいいのか・・・？！

聞いてみるしかない！

Vision

住み続けたいまち、帰ってきたいまち

データ・情報の分析結果から対象者を絞り直接リサーチしました

アンケート調査

対象：市内の中学2年生、高校2年生、幼稚園の園児の保護者

学生への質問

あなたの夢を小千谷で実現させるために、今このまちに何が必要ですか？
または、これからあなたがやりたいことを小千谷で実現するために、
今このまちに何が必要ですか？

保護者への質問

今、子育てをされていて足りないと感じる施設やサービス。
または、有ったらいいなあと思う施設やサービスはどんなものがありますか？
(補助制度など、金銭面を除く)



ワークショップ調査

対象：市内に在学の中学生と高校生、市内スポーツ指導関係者

学生での内容

小千谷の好きなところは？
小千谷に足りないものは？
小千谷に住み続けたい？
出てきた望みを実現するにはどうしたらいいだろう？

スポーツ指導者での内容

今現在の組織の構成や活動内容は？
抱える問題点は？
問題を解決するにはどうしたらよいでしょうか？



ヒアリング調査

対象：社会福祉関係、まちづくり関係団体に従事されている方

質問

これからの未来に向かい、住み続けたいまち、帰ってきたいまちを実現させていくために現状考えられる問題、これから必要だと思うことはありますか？

● 学生アンケートの結果、集約された主な内容です

長岡の千秋にあるような
大きなショッピングモールが
欲しい！

フリーWi-Fiが
あるといい！

もっと参加しやすい
イベントを作って！

バスと電車の本数を
増やしてほしいな！

進学先が小千谷に
あったらいいな！

静かに勉強できる
仕切られた場所があると
良いな！

駅の周りに色々な
お店があるといいな！



● 幼稚園保護者アンケートの結果、集約された主な内容です

共働きだから子供が病気の時に
預けられる場所、施設が欲しい。



動物、植物と触れ合えて、
誰もが交流できる運動公園
が欲しい。

赤ちゃんや小さい子供と
一緒にいてもものんびり
食事ができるレストラン
があると良いな。

雨でも雪でも遊べて、
赤ちゃんから小学生まで
ゆっくり遊べる
場所がほしい。

子供参加型のイベントをやって、
その間にフリマみたいに洋服や
おもちゃも販売できたらいいな。



● 社会福祉関係従事者へヒアリングの結果、集約された主な内容です

仕事の中で現在感じていることは何ですか？
これから必要だと思うことは何ですか？

施設での人手不足で手が回らない。

就業時間が特殊な仕事だけに
理解してもらえる環境づくりや
家族の支えあいも必要だと感じる
ところがあるな・・・！

法改正がありそうだから
これからの高齢者が心配で・・・

高齢者向けの施設は充実していると思うんだけど、
在宅高齢者が社会から孤立してしまうのではないかと
心配・・・

リハビリやトレーニングを頑張った
高齢者が社会復帰したときの
活動の場、活躍の場が必要だと思うわ！



今の小千谷に足りないと思うものは？

- ・若い人たちが使いやすい空間
- ・趣味との出会いの場 ・郷土資料館がない
- ・作品を発表できるようなギャラリー
- ・ゆったり、広々とした子供の遊び場
- ・バスの利便性

普段の活動を通してまちづくりに対して
気づいた点は？

まちづくりに携わっている人たちは地域にはいっぱいいます。
しかし、地域のことで小千谷全体を見ようとしていないと感じます。
また、小千谷を良くしようと言って全体を見ている様な発言をしている人も
実はまちなかの事を言っている場合が多いです。

今後のまちづくりで何が必要だと思いますか？

それぞれの地域で頑張っている人たちが集まって、
小千谷のために何ができるのかを考える場を作ることが
今は大切だと思います。
自分たちの地域だけではなく、小千谷全体を見た時にどのような
まちにしたいのか。もっと多くのひとからまちづくりに
参画してもらう様な仕組みづくりが必要だと思います。



●学生ワークショップの結果、集約された主な内容です

美味しいものが
たくさんある

良い人がいっぱい！
ひとの絆を感じられる
まつりがある！

オシャレ、食べる、
遊ぶ、買い物いろいろ、
ぜ～んぶ
一気に楽しみたい！



空気がきれい♪
自然が豊か！

大学、専門学校が
あればいいのに・・・。

自分たちが楽しめるイ
ベントをやりたい！

●スポーツ指導関係者ワークショップの結果、集約された主な内容です

練習会場までの距離、親御さんの都合で
スポーツをやりたがっている子供が参加できない
現状があると感じる



悪天候の時、屋外で
練習ができないとなった場合の
練習スペース確保が難しい。

小千谷の予約システム
優先順位なのかなあ・・・
なかなか練習会場の
確保ができない

遠征の際の子供たちを送迎する
バスの手配が大変苦労するんですね



今回のワークショップの目的は、小千谷に関わる人から小千谷についての様々な意見を聞き出すために実施しました。

ワークショップ終了後、アンケートにご協力をいただきました。

**新たなまちづくりをここから始めよう！
自分の住むまちだから、自分たちの声を市政に届けよう
ワークショップ参加者アンケート 結果（18名）**

※○内は人数

①もともとまちづくりに興味関心はありましたか。

☐あった⑧ ☐無かった⑩

②今日のワークショップでご自身の思うことを発言できましたか。

☐できた⑬ ☐できなかった⑤

③人口問題について考えるきっかけになりましたか。

☐以前から考えている① ☐良いきっかけになった⑬ ☐特にこれから考えようとは思わない④

・私たち小千谷青年会議所は一つの市民団体として、まちはこの地に住む市民の意見・意向が反映されてつくられていくことが望ましいと考えて今回のワークショップも企画しました。

④今回のワークショップを通じてまちづくりに対して考えるきっかけになりましたか。

☐以前から考えている① ☐いいきっかけになった⑬ ☐特にこれから考えようとは思わない④

⑤今後もこのように意見を言える機会があったら参加したいと思いますか。

☐積極的に参加したい④ ☐都合が付けば参加したい⑨ ☐気が向けば参加したい⑤ ☐参加しようと思わない④

⑥今回のワークショップ全体をとおして一言、感想をお聞かせください。

- ・スポ少の送迎、場所取りに苦労していることを知った・・・①
- ・まだまだ難しい問題だと思いました・・・①
- ・これからのまちづくりに関して以前より考える良いきっかけになった。意見を出し合うことは貴重だと思う・・・②
- ・こんなに将来の小千谷について真剣に話し合ったのは初めてで、何か感じるものがありました。・・・①
- ・小千谷、自分の住んでいるところを考えるいい機会でした・・・④
- ・様々な意見が聞けて、自分の意見を交わして良かった・・・④
- ・小千谷を客観的に見れる機会になりました・・・①
- ・リラックスした雰囲気のできたのでとても発言しやすかった・・・①

このアンケート結果をご覧くださいありがとうございます皆様は何を感じますか・・・？

アンケート調査、ヒアリングを通じて

アンケート調査を実施した結果、同じような意見は複数挙がってきました。ヒアリングについても問題点として同じような意見がそれぞれから上がってくることがありました。**一緒に集まるような機会**があれば、何かしらの解決や発展へつながる要素を見出せるのではないかと感じました。調査途中で気づき、そのような機会があるかヒアリングでお聴きしましたが、実施はされていないということでした。

ワークショップを通じて

様々な人と出会い言葉を交わしあったことで声の奥にある気持ちまで聴けたような気がします。例えば、学生では「自分たちでイベントを考えて実施したい。」スポーツ関係者では「少数の方々に大きな負担を背負っている現状。」

ワークショップで実情を知ることによって今までできなかったことも、今回の私たちのように世代や立場の違う多様な人たちと考えることで解決の兆しが見えたり、新たな発展を生み出す可能性があるのではないかと強く感じました。

ワークショップ参加者へのアンケートを通じて

興味関心がなかったまじのことも、きっかけがあれば関心を示してくださるというところ。きっかけづくりの大切さを実践をもって痛感しました。



Visionは、住み続けたいまち、帰ってきたいまち

私たちは、Vision「住み続けたいまち、帰ってきたいまち」を基に、アンケート調査、ヒアリング調査、ワークショップを通じてリサーチし、結果を改善し実現することでVision達成につながると考え活動してきました。しかし、アンケート調査、ワークショップ共に行った学生の反応に重要なことに気づかされました。

アンケート調査、ヒアリング調査からあがる要望とは、個の意見の集約です。実現させたとしても要望に応えてくれたという結果は残りますが、本人の意志とどれだけマッチングしているのかがわかりません。現状の改善にはなりますが、時間が経ち飽きたときにどうするのか・・・。

それに対し、ワークショップのような場を介し関わりながら実現させていく物事については、発展的に現実味を帯びます。実現すれば共通の愛着が持てる物事になると考えられます。その中で**一番重要なポイントは、実現させるまでの過程**で人と、世代と、地域など、今回の私たちのように**多様な立場の人がつながる**ことです。この多様な人たちと**つながる**ことこそが住み続けたいまち、帰ってきたいまちをつくるために必要です。

Mission つながる

共通のテーマや話題について、つながり語り合う多様な人たち

ひとと・世代と・地域と つながる

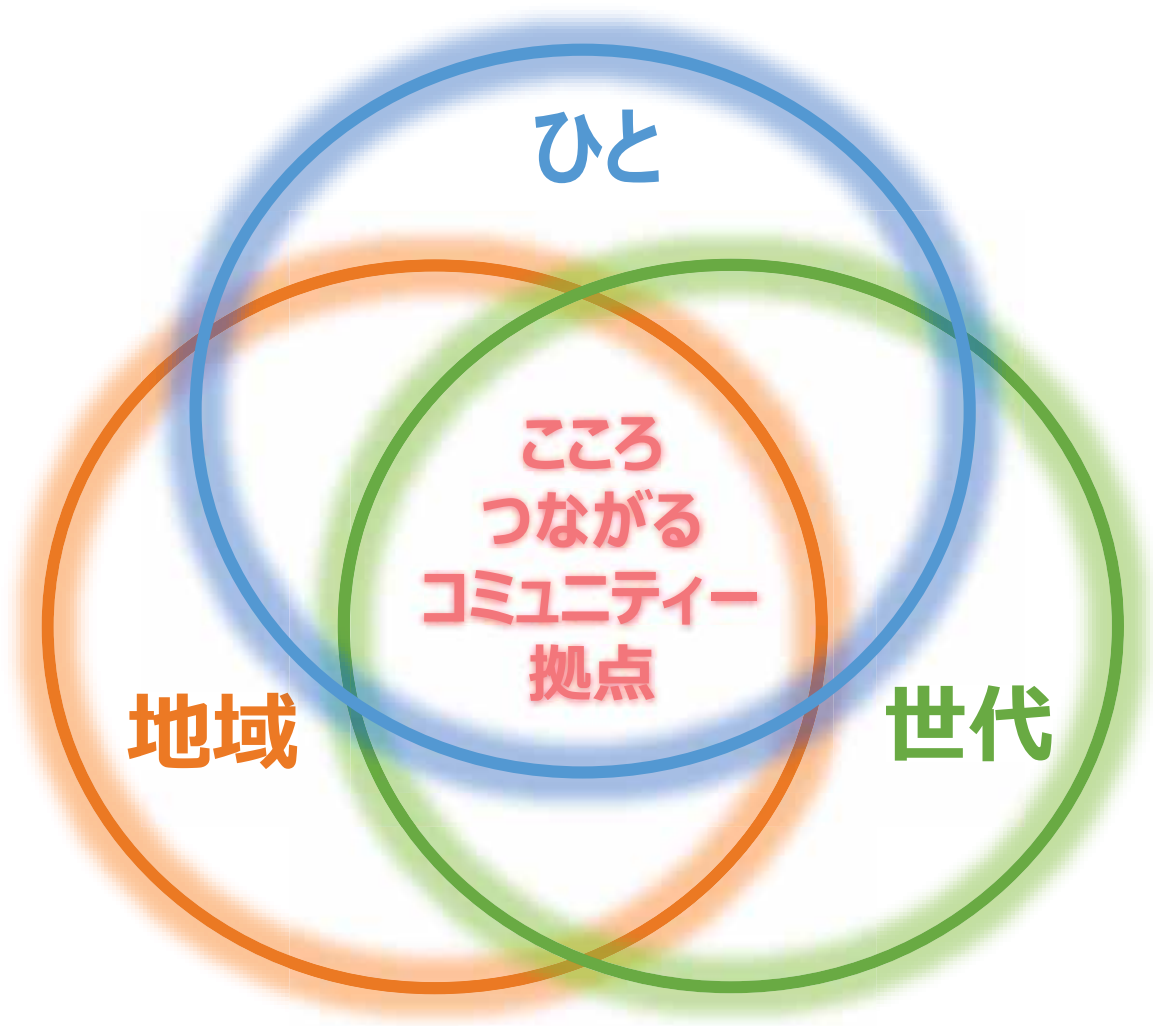
つながるとは、縁を結ぶこと

人とひとは何かしらのかきかけがあり出会います。このきかけはささいなことから、共通の場や話題・境遇など様々です。このきかけを介し出会い、コミュニケーションの頻度を増やすか減らすか。それによってつながり方は変わってくると考えます。

主体的に関係を維持しようと思えば、積極的にとまではいかないにしても、何かしらの形で接点を絶やさないようにするものだと考えます。



さて、ここまでは新たな拠点づくりのために**Vision**を掲げ活動し、**つながる**ことの必要性を見出しました。そして、まちを活用し生活する人にとってのまちの価値とは、多様な人たちと**つながりながら**愛着の持てるまちをつくることにあるという答えを導き出しました。



まちは誰のためにあるのか……………まちで生きる一人ひとりの市民です。
 まちはどうして存在しているのか……………一人ひとりの市民がいるからです。

現代言われている感性の多様化とは、多様な視点という産物を創りだしてくれたの
 かもしれません。今まで同じ立場の一部の人たちでは解決、発展できなかったことも、
 共通のテーマにおいて、世代や地域など様々な立場の人たちが**つながる**ことによって
 新たな発想が生み出され実現できることも増えてくると考えます。まずは「あ！自分た
 ちでもできるんだね！」の小さな積み重ねから、**つながる**人たちでつくるまちづくりが必
 要です。また、将来において新たな人材の発掘につながるかもしれません。

つながることは、自分がそこに生きている意味を持たせ、**つながる**ことでまちで育っ
 ている自分自身を知る。

「地域医療の拠点」としてまちを支えてきた小千谷総合病院。これからは、世代、
 地域など多様な立場の人たちに**つながり**ながら活用されることが必要です。私たちは
 全員、まちで生きる一人の人です。市民それぞれの立場を活かしながら、理想実現
 に向けて集い取り組むことこそが、これからのまちづくりに必要です。

理想の新たな

「私たちがつくっていく」

この施設は赤枠の機能を中心に成り立っています。従来のよう
他人ごとではない、自分ごととしてまちづくりを捉え活動する人た
決まりカタチになっています。この施設は1つの理想です。本当の

テナント（理想）

企業内の問題や発展要素を企業外
の多様な人たちと**つながり**多様な視
点で考える。まち全体で盛り上げよう

郷土資料館（理想）

現在、歴史を振り返ることができる身
近空場に郷土資料館があることで、
訪れる市民の郷土愛が育まれ、
郷土と市民が**つながる**

1番大切な拠点（発展の心臓部）

多様な人たちと**つながり**、ワクワクす
る話し合いを積み重ね、私たちがつく
るまちを具現化する中心的拠点

レストラン（保護者の声から）

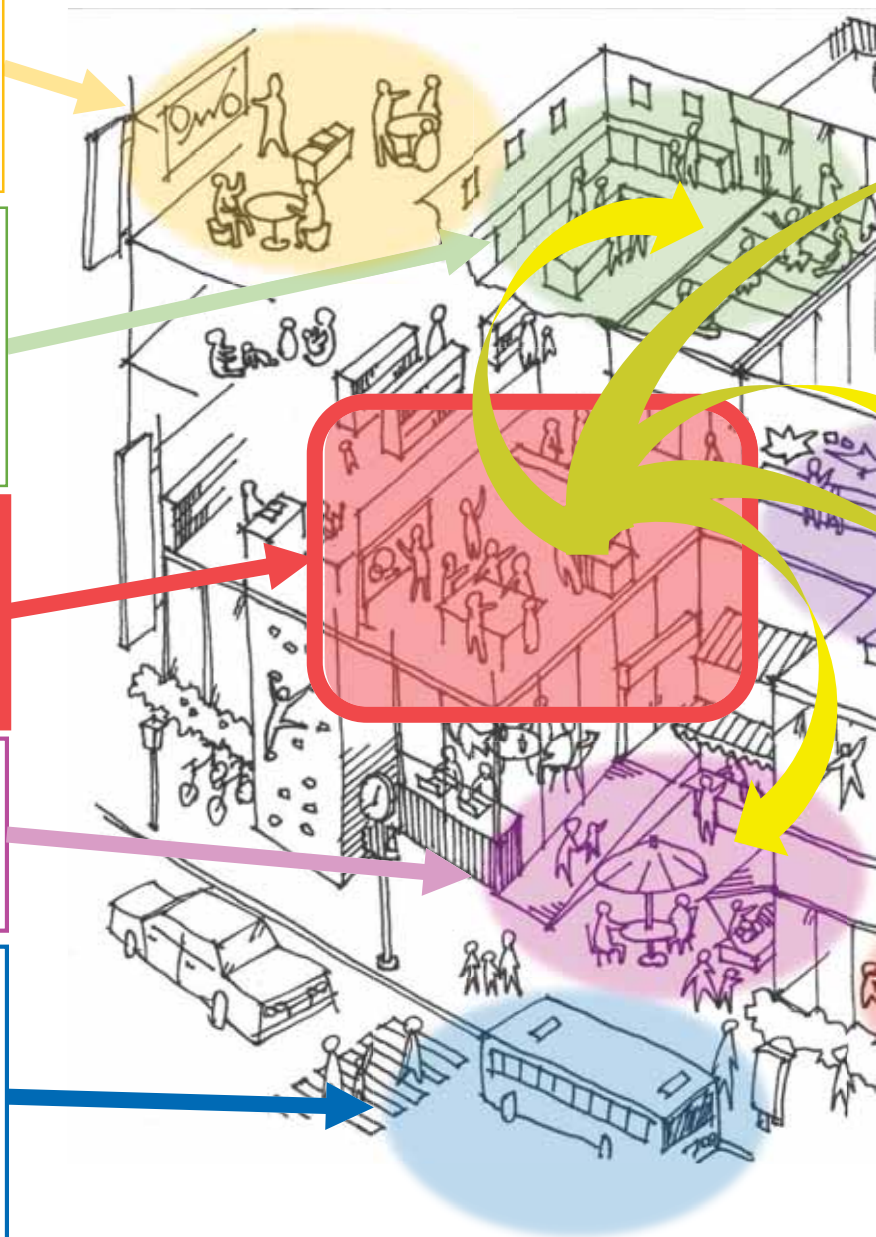
子供とゆっくりできるレストランカフェ。
つながる人たちの憩いの場

コミュニティバス（学生の声から）

人、地域が**つながる**。

人、物のターミナル

レストランには地場野菜を運び
テナントには地域の物産を運ぶ



この理想に向かうために今やるべきこと

活用方法は、 「場」そのための施設

誰かに与えられた空間に人々が集まる施設ではありません。
ちが、様々なテーマについて話し合い、ひとつずつ場の有り方が
の答えは、これから**つながる**多様な人たちがつくり出します。



イベント開催のスペース (学生の声)

自分たちの楽しめるイベントを大人
世代と**つながる**ことで実現

情報館 (まちづくり団体)

市民の情報公開掲示板。
現在動いているまち全体の様々な
情報があることで
人と地域が**つながる**。
拠点での様々な活動内容
発信、集約の場。

学びの場 (学生の声)

静かな学習スペースはもとより、
時間帯により、塾や生涯学習など、
世代間が**つながる**学びを軸にした場

テナント (理想)

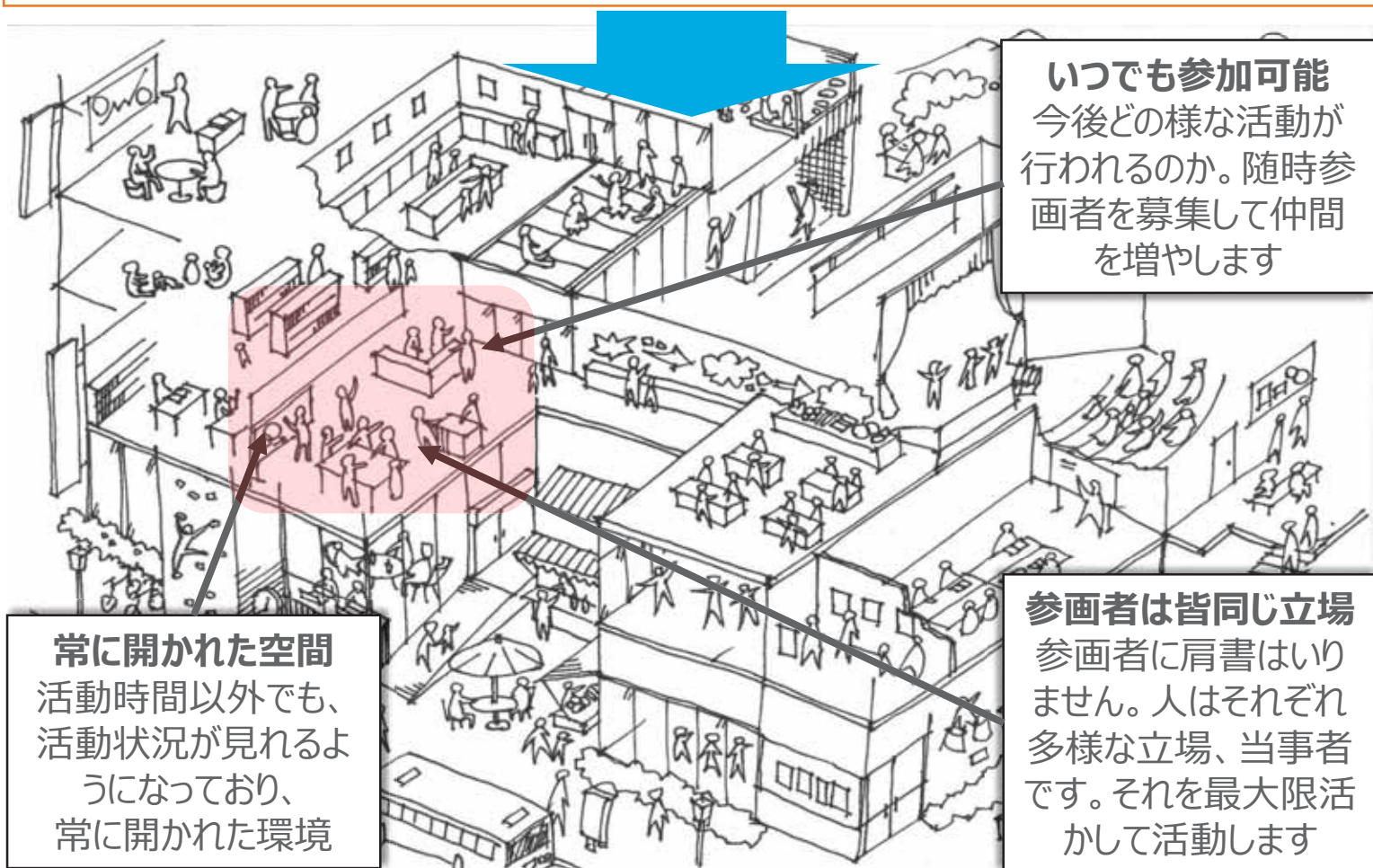
多様な人たちが行き交う人の結節
点。民間企業と**つながる**ことで、更なる
価値ある場をつくる。まちに生きる
個人出展の物産コーナー設置で新
たなビジネススタイルの可能性も…

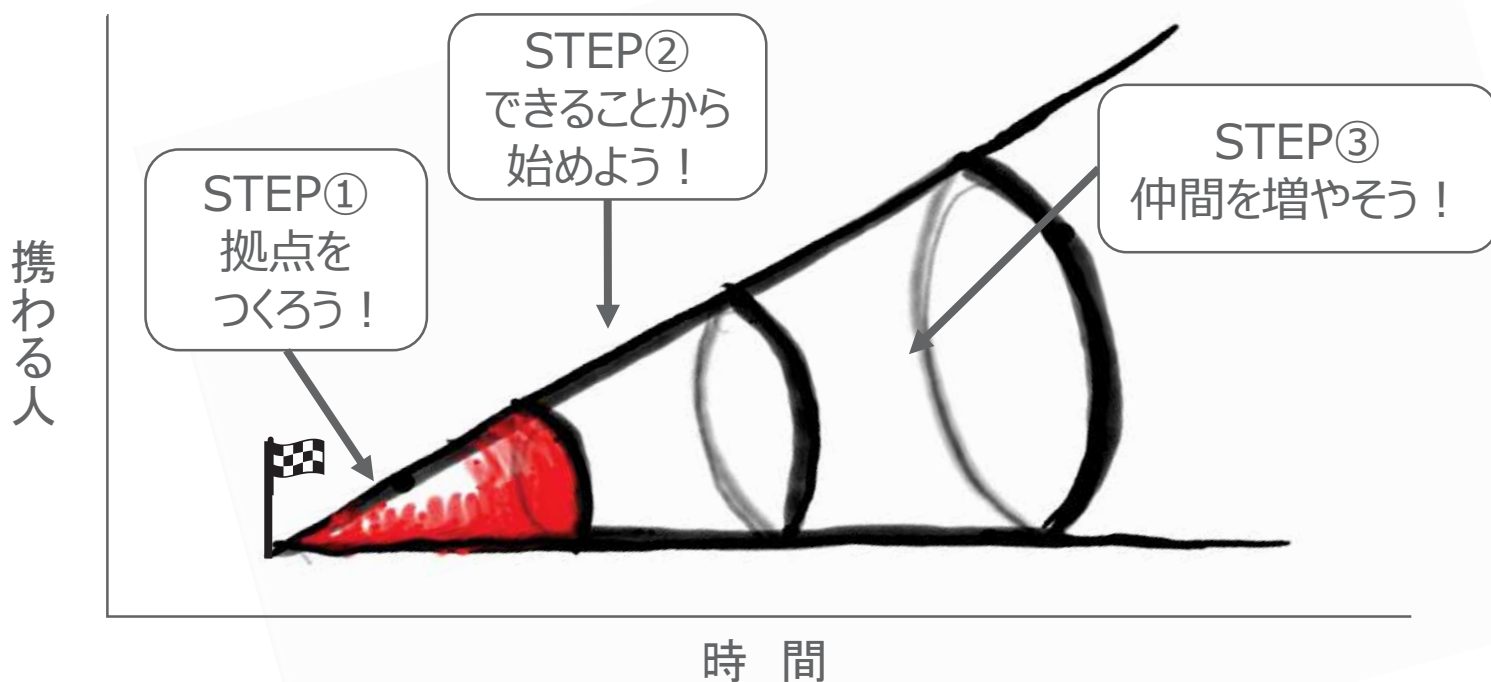
とは何か次のページで解説します。

「私たちがつくる施設」を実現するには
ひと・地域・世代
多様な人たちがつながり活動することのできる

拠点づくりから始まります

その拠点の始まりは、場所を問いません
最初に関わる人が少ないかもしれませんが、開かれた環境をつくることによって
いつでも参加を可能にし
多様な人たちとつながることで
様々なことが実現可能になる場所です





STEP①集まるための拠点をつくろう

集うひとたち(つながる)がこれからのまちづくりについて語り合う場が必要です。団体も個人も参加者に上下関係はなく、誰もが個で尊重されており、発起人も参加者もみな公平な立場です。それぞれの立場を知り、長所を活かしながら積極的市民活動を進めていきます。

STEP②できることから始めよう（ワークショップ）

それぞれが主体的な立場として、抱える課題や問題を解決するために必要だと思う物事をテーマとして掲げ、そのテーマに関連し、多様な人と、世代と、地域の方々が集まり(つながる)ワークショップを重ねて実現に向けて活動を展開。新たな拠点を活用し、できることからカタチにしていきます。

例：気軽に立ちよれるカフェ

小さな子供の遊び場づくり

学生の勉強スペース

学生が参加しやすいイベント

高齢者の交流、活躍の場づくり など

そのほか、アンケートやチラシ、SNSなどの広報の活用➡当事者が集まる仕組み

★参加者や拠点利用者はチームOJIYAメンバーへの登録！

STEP③みんなでワクワク！仲間を増やそう！

カタチになったものを利用してくれた市民をこの活動に巻き込み仲間を増やし、どんどん新たなカタチを創りだしていこう！そうすることでみんながワクワクできるまちになる。

まちをつくるのはだれなのか

自分たちの住むまちは自分たちがつくること、が当たり前だと思える市民が徐々に増えていくことが必要であり、これからのまちのあるべき姿だと考えます。

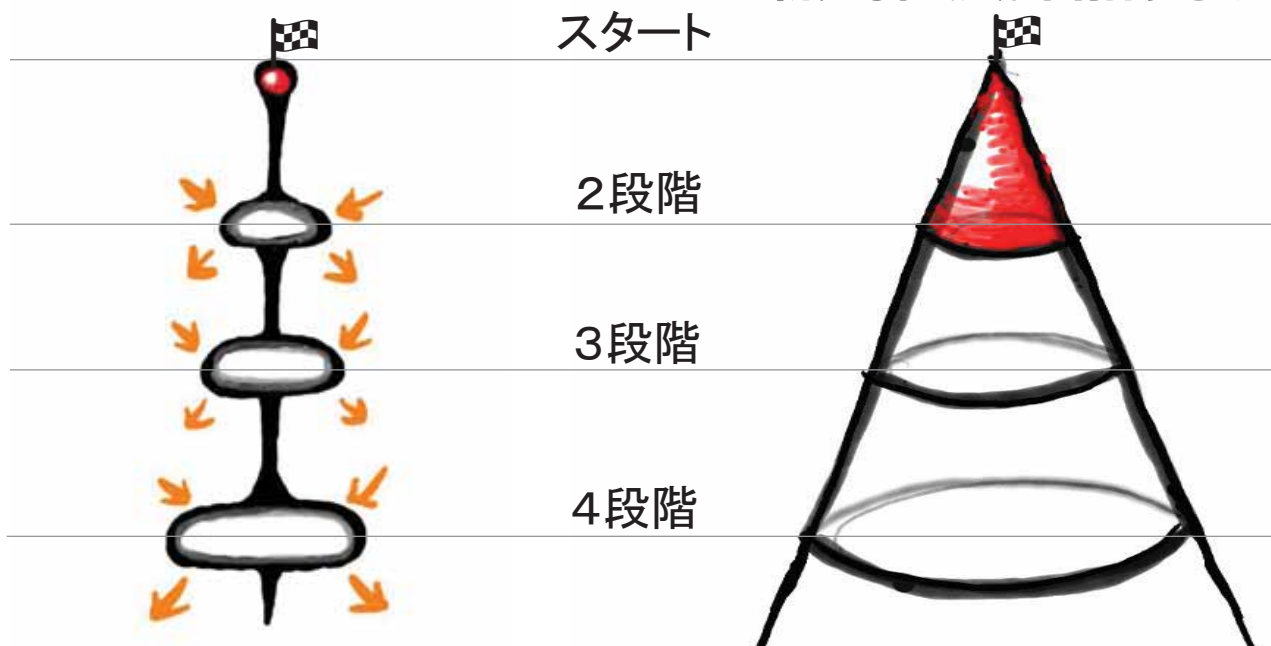
これが・・・



私たちがつくるまち 新たな拠点づくりをここから始めよう

従来通りのやり方

新たな拠点が目指すもの



①提供型まちづくり

②つながるまちづくり

①一部の人たちでつくるまちのカタチ ➡ 誰かがつくったカタチ

②多様な人たちが**つながりながら**つられていくまちのカタチ ➡ 私たちがつくったカタチ

②はその過程に多様な**つながる**人たちがおり、現実になったカタチに共通の愛着が生まれます。愛着の持てるカタチが関わった人たちにとって価値あるまちの姿になるのではないのでしょうか。 自らが関わってつくられたカタチであれば関心も高まり、持続する可能性、発展する可能性も高まると考えられます。

多様なつながる人たちでカタチを生み出す仕組みを持つことで、様々なテーマにおいて新たなまちのカタチを生み出せます。これは**新たなまちづくりの仕組み**になると考えます。

住み続けたいまち、帰ってきたいまちになるには、共通のテーマ実現のためにワークショップやセミナーという手段を介して**つながる**人を増やし、1つ、また1つと、**わたしたちがつくるまち**を実現させていくことで達成されたいと考えます。

小千谷総合病院のこれから

平成29年4月 J A厚生連小千谷総合病院として、平沢にて開院
 平成29年4月 所有者を小千谷市にするための清算開始
 平成29年8月ころ 病院跡地の試験的な暫定活用開始予定
 (暫定活用に向けての活動は随時実施)
 ※試験的活用期間は1年以上あります。終了時期は未定です。

一般社団法人小千谷青年会議所 第58代理事長 池 雄太 御挨拶



2016年度は、「^{こころ}試 just do it」をスローガンに、「すべてはこの地域の人と社会の明日のために」の基本理念の下、活動をさせていただきました。その取り組みのひとつとして、新たな視点、観点、手法による新たなまちづくりの創出に取り組み、小千谷総合病院跡地活用に対するアンケート・ワークショップ・ヒアリングの開催、県内外の先進施設の視察を重ね、この度、提言書としてまとめさせていただきました。行政の皆様をはじめ、多くの市民の皆様よりご理解、ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

今後も私たち青年会議所は、この地域の人と社会の明日のために、これからも無限の可能性に向けてチャレンジしていく所存でございますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

いまこそ踏み出そう新たな一歩！

小千谷の未来は、まちに生きる私たち一人ひとりの市民の^{こころ}試にある！
 新たなまちづくりをここから始めよう！

多大なるご理解とご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。

【調査協力会社、団体、組織】

小千谷幼稚園	小千谷市内社会福祉施設 5 施設	(株)上越シビックサービス PFI事業会社
つくし幼稚園	NPO法人おぢや元気プロジェクト	南砺市立図書館 福光会館
ひばり幼稚園	市民活動ネットワークおぢや	イクネスしばた
小千谷中学校	こいこいスポーツクラブおぢや	十日町市市民交流センター 分じろう 十じろう
片貝中学校	DMクラブ	Share金沢
千田中学校	和泉ファイターズ	B. LEAGUE 金沢武士団
南中学校	片貝ジャガーズ	長岡造形大学
東小千谷中学校	小千谷サッカークラブ	わんパーク
小千谷高校		小千谷市立図書館
小千谷西高校		小千谷市



一般社団法人 小千谷青年会議所 2016年度

基本理念 すべての地域の人と社会の明日のために

スローガン 試^{こころ} just do it

小千谷JC

← ホームページ検索

小千谷JC

← Facebook検索

2016年12月27日 発行

Junior Chamber International Ojiya